



学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

2023年度
学校関係者評価

I. 学校関係者評価委員（敬称略・順不同）

- ・関 俊昭
医療法人社団創造会 平和台病院 リハビリテーション科統括課長
- ・土居 義典
千葉県作業療法士会 理事
- ・宮下 雅史
千葉・柏リハビリテーション学院 非常勤講師
- ・五十嵐 和人
医療法人社団葵会 千葉・柏リハビリテーション病院 事務長

II. 千葉・柏リハビリテーション学院 教職員

- ・星野 光宏
学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院 理学療法学科学科長
- ・熊谷 淳平
学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院 作業療法学科学科長
- ・北村 達夫
学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院 理学療法学科教務主任
- ・高梨 翼
学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院 作業療法学科教務主任
- ・藤枝 三紀
学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院 事務長
- ・阿久津 孝光
学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院 総務課長

Ⅲ. 評価項目と評価基準

1. 教育理念・目的・育人人材像等	
1-1	学校の理念・目的・目標は定められているか
1-2	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
1-3	学校の理念・目的・育人人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
1-4	各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
2. 学校運営	
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか
2-3	運営組織は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか
2-4	人事、給与に関する規程等は整備されているか
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
2-7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか
3. 教育活動	
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
3-2	教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
3-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
3-11	関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
3-12	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか
3-13	職員の能力開発のための研修等が行われているか
4. 学習成果	
4-1	就職率の向上が図られているか
4-2	資格取得率の向上が図られているか
4-3	退学率の低減が図られているか

5. 学生支援	
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか
5-7	保護者と適切に連携しているか
5-8	卒業生への支援体制はあるか
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
5-10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか
6. 教育環境	
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
6-3	防災に対する体制は整備されているか
7. 学生募集と受入れ	
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
7-3	学納金は妥当なものとなっているか
8. 財務	
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
8-3	財務について会計監査が適正におこなわれているか
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか
9. 法令等の遵守	
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
9-4	自己評価結果を公開しているか
10. 社会貢献	
10-1	学生の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切 0：未実施

IV. 評価結果

1. 教育理念・目的・育成人材像等

1-1 学校の理念・目的・目標は定められているか

(2022) 評価：4／学校の理念・目的・目標を定めている。(教育要項参照)

(2023) 評価：4／学校の理念・目的・目標を定めている。(教育要項参照)

1-2 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

(2022) 評価：4／社会的なニーズを踏まえて、主体的に考え実践できる学生の育成に努めた。

(2023) 評価：4／社会的なニーズを踏まえて、主体的に考え実践できる学生の育成に努めた。

1-3 学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか

(2022) 評価：4／教育要項への掲載や入学時のガイダンス等で学生および保護者に周知している。

(2023) 評価：4／教育要項への掲載や入学時のガイダンス等で学生および保護者に周知している。

1-4 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

(2022) 評価：4／学科ごとに教育目標を定め、理学療法士・作業療法士の育成に努めた。

(2023) 評価：4／学科ごとに教育目標を定め、理学療法士・作業療法士の育成に努めた。

課題と改善方策

(2022) 継続して、育成に努めた。今後も継続していく。

(2023) 継続して、育成に努めた。今後も継続していく。

2. 学校運営

2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか

(2022) 評価：4／目的に沿った運営方針を策定している。

(2023) 評価：4／目的に沿った運営方針を策定している。

2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか

(2022) 評価：4／上記の運営方針に則った事業計画を策定している。

(2023) 評価：4／上記の運営方針に則った事業計画を策定している。

2-3 運営組織は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか

(2022) 評価：4／運営組織における規則の明確化はなされており、有効に機能している。

(2023) 評価：4／運営組織における規則の明確化はなされており、有効に機能している。

2-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか

(2022) 評価：4／各規程の整備はされている。

(2023) 評価：4／各規程の整備はされている。

2-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか

(2022) 評価：4／教務・財務等の組織は整備されている。

(2023) 評価：4／教務・財務等の組織は整備されている。

2-6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

(2022) 評価：4／学院 HP や専用の SNS を使用し、教育活動の情報公開に努めた

(2023) 評価：4／学院 HP を中心に SNS などを活用し、教育活動の情報公開に努めた

2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(2022) 評価：4／学籍管理、成績管理などをシステム管理している。

また教員間での業務の連携をネットワークサーバーにて可能とし、効率化を行っている。

(2023) 評価：4／学籍管理、成績管理などをシステム管理している。

また教員間での業務の連携をネットワークサーバーにて可能とし、効率化を行っている。

課題と改善方策

(2022) 継続して学院 HP や SNS を利用した情報発信に注力しており、今後も継続していく予定である。

(2023) 継続して学院 HP や SNS を利用した情報発信に注力しており、今後も継続していく予定である。

3. 教育活動

3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

(2021) 評価：4／教育理念に沿って主体的に考え実践できる学生の育成に努めている。

またその育成を3年間で完成できるようにカリキュラムを編成している。

(2022) 評価：4／教育理念に沿って主体的に考え実践できる学生の育成に努めている。

またその育成を3年間で完成できるようにカリキュラムを編成している。

3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

(2022) 評価：4／新型コロナウイルス感染症の影響が軽減し、すべての授業を対面式の授業へ切り替え、学習時間を確保した。また学生・保護者に対して入学時、進級時に提示している。

(2023) 評価：4／新型コロナウイルス感染症の影響はなくなり、すべて対面にて授業を実施し、就業年限に対応した学習時間を確保している。

3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

(2022) 評価：4／学科ごとのカリキュラムを体系的に編成している。

(2023) 評価：4／学科ごとのカリキュラムを体系的に編成している。

3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

(2022) 評価：4／すべての授業を対面授業にし、科目担当者の再編や、それに伴う授業計画の再構築を図った。

(2023) 評価：4／年度ごとに学科会議を通して、科目担当者の再編・構成を行っている。また学生からのアンケートなどを通して、授業計画の再構築を図った。

3-5 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか

(2022) 評価：4／職業教育を体系的に位置付け、運用している。一部新型コロナウイルス感染症の影響により、学内演習を実施したが、職業教育と位置付けて適切に運用している。

(2023) 評価：4／職業教育を体系的に位置付け、運用している。また新型コロナウイルス感染症の影響がほぼなくなり、全ての実習を臨地で実施している。

3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか

(2022) 評価：4／全ての科目に対して授業評価を実施している。

(2023) 評価：4／全ての科目に対して授業評価を実施している。

3-7 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

(2022) 評価：4/4名の評価員による学校関係者評価を継続している。

(2023) 評価：4/4名の評価員による学校関係者評価を継続している。

3-8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

(2022) 評価：4/各基準は明確となっている。

(2023) 評価：4/各基準は明確となっている。

3-9 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

(2022) 評価：4/理学療法士作業療法士学校養成所指定規則などにに基づきカリキュラムを編成し、1年次より段階的に修学が行えるように指導体制を整えている。

(2023) 評価：4/理学療法士作業療法士学校養成所指定規則などにに基づきカリキュラムを編成し、1年次より段階的に修学が行えるように指導体制を整えている。

3-10 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

(2022) 評価：3/理学療法学科は要件を備えた教員を確保している。

作業療法学科においては教員数の確保はできたが、教育経験は少なく理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教育講習会などへの参加していく。

(2023) 評価：3/理学療法学科は要件を備えた教員を確保している。

作業療法学科においては教員数の確保はできたが、教育経験は少なく理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教育講習会などへの参加していく。

3-11 関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか

(2022) 評価：4/学科ごとに臨床での実践経験の豊かな理学療法士・作業療法士を講師として教育を実施している。

(2023) 評価：4/学科ごとに臨床での実践経験の豊かな理学療法士・作業療法士を講師として教育を実施している。

3-12 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか

(2022) 評価：4/理学療法学科・作業療法学科より各教員1名が理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教育講習会へオンラインにて参加した。

(2023) 評価：4/理学療法学科・作業療法学科より各教員1名が理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教育講習会へオンラインにて参加した。

3-13 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(2022) 評価：4/遠隔での実習指導者講習会参加など、研鑽を行った。

(2023) 評価：4/遠隔での実習指導者講習会参加など、研鑽を行った。

課題と改善方策

(2022)

全ての講義を対面授業に切り替え実施したが、教育体制に大きく混乱はなく実施することができた。実習等の外部施設との関係においては一部学内演習を実施しなければならない点もあったが、学生、教員ともに学内演習の運用の習熟度も上がり、一定の水準を保つことができています。

教員数においては人数的な補充は確保できたが、経験の不足があり、教員研修などにより研鑽を積んでいく。

(2023)

学生の教育活動においては適切に実施できている。実践的な職業教育としても、前年度では一部学内演習を交えたが、2023年度はすべての臨地実習を実施することができた。

教員数においては適切な数を確保しているが、経験不足の教員がおり、研修を通して研鑽を積んでいくことが必要である。

4. 学習成果

4-1 就職率の向上が図られているか

(2022) 評価：4／卒業生すべての就職を達成しており、また各学生の希望に応じた就職も達成できた。

(2023) 評価：4／卒業生すべての就職を達成しており、また各学生の希望に応じた就職も達成できた。

4-2 資格取得率の向上が図られているか

(2022) 評価：4／最終学年の学生すべての資格修得を目指し、
毎年の受験数・合格率・各学生の状況を正確に把握している。

(2023) 評価：4／最終学年の学生すべての資格修得を目指し、
毎年の受験数・合格率・各学生の状況を正確に把握している。

4-3 退学率の低減が図られているか

(2022) 評価：3／一定数の退学者が認められた。

(2023) 評価：3／一定数の退学者が認められた。

課題と改善方策

(2022)

一定数、退学者が認められた。退学者の傾向としては1年次の進路変更を理由とする学生が多い。授業開始から徐々にモチベーションの低下が見られ、学習参加が滞っていき退学もしくは休学という流れである。学生相談室への促しや教員面談を繰り返していくも、状況が変わる学生は少なく、低減させることは困難であった。今後は入学前からの意欲を図り、入学前から関りを持っていくよう対策を図っていく。

(2023)

前年度と変わらず、一定数の退学者が認められた。退学者の傾向としても変わらず、1年次の進路変更が主であった。退学者数の状況においては、入試とも密接な関係があると考えられる。若年層の人口低下がおよぼす各大学・専門学校の入試の易化により、基礎学力の不足している学生や目的意識の希薄な学生を受け入れざるを得ず、入学当初より学習につまづくと、授業についていけず、退学を選択するケースが多い。そのため初年度教育に力をいれ、学生の学習面や心理面などあらゆる面からのサポートを目指している。さらにそのようなサポート体制は各担任のみでは完成できないため、学年学科を越えた全学的なサポートが必要であり、その体制づくりが急務である。

5. 学生支援

5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

(2022) 評価：4／学生がすぐに求人票を閲覧できよう整備している。

また外部施設の就職担当者来校型の就職相談会を継続して実施した。

(2023) 評価：4／学生がすぐに求人票を閲覧できよう整備している。

また外部施設の就職担当者来校型の就職相談会を継続して実施した。

5-2 学生相談に関する体制は整備されているか

(2022) 評価：4／学生相談室を設置し、臨床心理士が学生のカウンセリングを実施している。

(2023) 評価：4／学生相談室を設置し、臨床心理士が学生のカウンセリングを実施している。

5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

(2022) 評価：4／奨学金支援制度を学生に紹介の上、手続き支援を実施している。

また担当職員が定期的に説明会を開催している。

(2023) 評価：4／奨学金支援制度を学生に紹介の上、手続き支援を実施している。

また担当職員が定期的に説明会を開催している。

5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

(2022) 評価：4／健康診断を実施の上、学生すべての結果を管理している。

また感染対策に対するガイドラインを定め、日々の体調管理を実施している。

(2023) 評価：4／健康診断を実施の上、学生すべての結果を管理している。

また感染対策に対するガイドラインを定め、日々の体調管理を実施している。

5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか

(2022) 評価：0／昨年度と引き続き、学生の安全確保のため全てのサークル活動はすべて中止した。

(2023) 評価：0／昨年度と引き続き、学生の安全確保のため全てのサークル活動はすべて中止した。

5-6 学生の生活環境への支援は行われているか

(2022) 評価：4／遠方からの入学者に対して学生寮の紹介を実施した。

また入居費用の補助を実施した。

(2023) 評価：4／遠方からの入学者に対して学生寮の紹介を実施した。

また入居費用の補助を実施した。

5-7 保護者と適切に連携しているか

(2022) 評価：4／入学時に保護者を呼びガイダンスを実施した。また任意の学生に対しては学習面の遅れや出欠席に関して担任から保護者へ連絡を行い、適切な連携がとれている。

(2023) 評価：4／入学時に保護者を呼びガイダンスを実施している。また任意の学生に対しては学習面の遅れや出欠席に関して担任から保護者へ連絡を行い、適切な連携がとれている。

5-8 卒業生への支援体制はあるか

(2022) 評価：4／利用時の事前連絡は引き続き継続したが、卒業生の学院利用の制限を撤廃し、利用可能とした。

(2023) 評価：4／卒業生には可能な限り事前連絡をお願いしているが、事実上、卒業生の学院利用には制限なく、利用可能としている。

5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

(2022) 評価：4／学習支援システムを導入しており、学生の教育環境を整備している。

(2023) 評価：4／学習支援システムを導入しており、学生の教育環境を整備している。

5-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか

(2022) 評価：4／新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、高校などとの連携が増え、説明会などを多数実施した。

(2023) 評価：4／高校・高等専修学校と連携をとり、1年次の職業紹介から2・3年次のキャリア教育・職業教育を多数実施した。

課題と改善方策

(2022)

学生支援の整備は整っており、問題なく実施できている。しかしながらサークル活動などの外部との接触が多く、集団となりやすいものに関しては昨年度同様に自粛した。今後は社会情勢を鑑みながらサークル活動などを再開していく予定である。

(2023)

学生支援の整備は整えており、健康面、心理面、経済面などサポートを実施できている。学習環境においても常に適切に整備している。引き続き、継続していく。

6. 教育環境

6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

(2022) 評価：4／教育上、必要となる施設・設備を整備している。

(2022) 評価：4／教育上、必要となる施設・設備を整備している。

6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

(2022) 評価：3／学外の教育体制において、徐々に新型コロナ以前の教育体制に戻りつつある。しかしながら、完全に戻ったとは言い切れず学内での演習に置き換えた場面もあった。今後は十分な教育体制を取り戻せるよう整備していく。

(2023) 評価：4／実習においても、新型コロナ以前の教育体制を取り戻し、すべての実習において学外にて実施した。

6-3 防災に対する体制は整備されているか

(2022) 評価：4／全学生参加の防災訓練を実施、防災に対する体制を築いている。

(2023) 評価：4／全学生参加の防災訓練を実施、防災に対する体制を築いている。

課題と改善方策

(2022)

学内における教育環境は整っているとと言える。しかしながら学外の教育体制においては、コロナ以前に戻りつつあるものの完全とは言えなかった。しかしながら今後は十分な体制を取れるよう整備している。

(2023)

学内外の教育環境はコロナ以前の環境に戻り、全て整っているとと言える。引き続き、継続していく。

7. 学生募集と受入れ

7-1 学生募集活動は、適正に行われているか

(2022) 評価：4／学生募集は適正に行われており、2022年度の定員は充足した。
また学生募集要項を毎年更新し明確化している。

(2023) 評価：3／辞退者などの不確定因子の想定を誤り、理学療法学科、作業療法学科ともに定員を超過してしまった。

7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

(2022) 評価：4／オープンキャンパスにおいて、国家試験合格率や就職率の状況を説明している。

(2023) 評価：4／オープンキャンパスにおいて、国家試験合格率や就職率の状況を説明している。

7-3 学納金は妥当なものとなっているか

(2022) 評価：4／学納金は社会状況を踏まえ適切に設定している。

(2023) 評価：4／学納金は社会状況を踏まえ適切に設定している。

課題と改善方策

(2022)

前年度同様、学生募集と受入れにおける各項目は適切に運用している。

今後も継続して適切な運用に努めていく。

(2023)

学生募集において定員を超過した。今後は適正に実施できるよう、入学予定者本人、保護者、高校などと密に連絡をとりあい、入学までの詳細な情報を分析し、対策をとっていく。

8. 財務

8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

(2022) 評価：4／安定しているといえる。

(2023) 評価：4／安定しているといえる。

8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

(2022) 評価：4／十分に精査したうえで、予算書の作成を実施した。

(2023) 評価：4／十分に精査したうえで、予算書の作成を実施した。

8-3 財務について会計監査が適正におこなわれているか

(2022) 評価：4／会計士による監査を実施した。

(2023) 評価：4／会計士による監査を実施した。

8-4 財務情報公開の体制整備はできているか

(2022) 評価：4／ホームページにて情報を公開している。

(2023) 評価：4／ホームページにて情報を公開している。

課題と改善方策

(2022)

前年度同様、財務における各項目は適切に運用している。

今後も継続して適切な運用に努めていく。

(2023)

前年度同様、財務における各項目は適切に運用している。

今後も継続して適切な運用に努めていく。

9. 法令等の遵守

9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

(2022) 評価：4／指定規則に則り、適切に運営している。

(2023) 評価：4／指定規則に則り、適切に運営している。

9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

(2022) 評価：4／個人情報の取り扱いに関する規程を設け、
必要な書類の完備および適切な保管を行っている。

(2023) 評価：4／個人情報の取り扱いに関する規程を設け、
必要な書類の完備および適切な保管を行っている。

9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

(2022) 評価：4／自己評価を実施し、問題点の洗い出しおよび改善を実施した。

(2023) 評価：4／自己評価を実施し、問題点の洗い出しおよび改善を実施した。

9-4 自己評価結果を公開しているか

(2022) 評価：4／公開を実施している。

(2023) 評価：4／公開を実施している。

課題と改善方策

(2022)

前年度同様、法令を遵守し学校運営を実施している。

今後も継続して適切な運用に努めていく。

(2023)

前年度同様、法令を遵守し学校運営を実施している。

今後も継続して適切な運用に努めていく。

10. 社会貢献

10-1 学生の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

(2022) 評価：4／理学療法士実習指導者講習会を開催し、当学院から配信し指導者の育成にあたった。

(2023) 評価：4／理学療法士実習指導者講習会を開催し、当学院から配信し指導者の育成にあたった。

10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

(2022) 評価：0／軽減したとはいえ、完全に新型コロナウイルス感染症が終息したとは言えず、ボランティア活動は全て中止している。

(2023) 評価：4／地域で行われる「手賀沼エコマラソン」等でのボランティア活動を奨励し、学生が参加した。その際、サポートとして教員2名が同行した。

課題と改善方策

(2022)

社会貢献として指導者講習会の開催を実施したが、新型コロナウイルスの影響が完全に終息したとは言えず、地域貢献に関しては実施できていない。次年度からは社会情勢を考慮しながら慎重に進めていきたい。

(2023)

社会貢献活動としては新型コロナ以前の状況に戻りつつある。ボランティア活動において学生参加の推奨と支援を実施できたが、まだ限られたもののみとなっているので、今後社会状況を鑑みながら地域への貢献を増やしていく予定である。